



わたなべ よしまさ
渡辺 佳正 議員
(日本共産党議員団)

奨学金返還支援助成金制度の充実と働き方改善の取り組みについて

問 市の奨学金返還支援助成金制度の対象者拡大、助成期間の延長、予算の拡大などについて、どう考えるか。

部長 非正規労働者までの拡大は考えていない。国や県の動向を注視しながら、助成期間の延長や同制度のあるべき姿について研究していきたい。

問 市内企業で働く正規・非正規労働者の人数と割合はどうなっているか。

部長 県内全体の割合から、市内の雇用者5万2000人のうち、正規が3万2000人、非正規が2万人と推測される。市内大手8社では、正規が4200人(58%)、非正規が3000人(42%)となっている。

問 最低賃金を一律1000円に引き上げるための中小企業支援を国に求めることについて、どう考えるか。

部長 企業が賃上げしやすい環境を整備する方策が議論されることが予想されるので、市として状況の把握に努める。

奨学金返還支援助成制度の充実を！



道路にはみ出す樹木(支障木)の問題について

問 ここ数年、支障木の実態は改善されているのか。

部長 問題は複雑化、悪化している。

市長 「広報ふじのみや」を使って、通行の妨げになる樹木の除去を土地の所有者に呼びかけていきたい。



いなば こうじ
稲葉 晃司 議員
(蒼天)

富士宮市の普通救命講習と消防団の課題について伺う

問 平成19年6月2日と平成29年3月12日の道路交通法改正に伴い、消防団の準中型免許の取得に関して静岡県等の動向はどうか。また、県内各市町において10の自治体が準中型免許の取得に対する補助を行うようであるが富士宮市の対応はいかがか。

部長 平成19年6月の法改正後、中型免許を取得しなければ運転できない車両は4台の水槽付き消防車両であり、車両を配備してある分団ではおおむね90%以上の団員が運転可能な免許を保有している。しかし、将来平成19年度以降に免許を取得した団員が増えてくることから車両の機能、性能は向上を図りつつ、車両全体が小型化となるようポンプ車^{ポンプ車}と検討し、平成

31年2月に第19分団に従来のものより全長を1メートル、車幅を30センチメートル縮小し、1トンの水を積載した水槽付きポンプ車両を配備した。また、平成29年3月の同法改正により準中型自動車免許が新設され、富士宮市の消防団車両34台がこの免許区分に該当する。この準中型免許の取得に関する静岡県等の動向は、静岡県消防協会では当該免許の取得費用に対する助成制度の開始を今年度中をめどに検討しているとのこと。富士宮市は今後の近隣市町や県等の動向を注視していく。

問 準中型免許でも運転可能な車両にするなどの工夫で第6方面隊にも水槽付きポンプ車両を導入することは可能か。

部長 昨年度整備した水槽付き消防車両は現行のものより小型化しているので、第6方面隊においても車両更新時に検討していきたい。